



嘉倉 かくら

治 おさむ



森林環境整備と管理撫育に関して

Q 森林環境譲与税の活用について。

A (課長) 林地台帳制度による森林クラウドシステムの負担金、森林経営管理制度協議会、多摩の森活性化プロジェクト協議会等の負担金や森林管理巡視委託、林道維持作業業務委託、新たにナラ枯れ対策補助事業補助金、林班案内看板交換委託などに充てている。残りは森林整備に要する基金積み立てをしている。

Q 多摩の森活性化プロジェクトに対する町の基本方針と特別区自治体の連携について。

A (課長) 自治体が所有する山林の間伐、カーボンオフセット事業として二酸化炭素吸収量の認証準備を行っている。今後の整備事業の候補として予定しており、都内間で連携した事業に繋がるよう連携していく。



Q

今、課題として頂上付近の間伐材など搬入、集積するだけの搬入路が確保されていない問題がある。放置しておけば台風被害を増長する恐れがあり、今後の林道整備と間伐材処理に関して、町内の林道は25路線あり、その内2路線が都の管理である。林道の整備状況は、令和元年の台風19号に伴う復旧工事が終了次第、不動沢林道と幸神入林道の開設工事を再開する予定。今後、間伐材に限らず主伐材の搬出ができる車輛幅員を確保した開設工事の林道整備の検討が必要と考えている。

A (課長)



鈴木 すずき
正彦 まさひこ



清掃活動専用無料ゴミ袋を活用し、町の美化促進について

Q ボランティア袋を無料配布するべきと考えるが。

A (課長) 既に運用しており、47団体、70名の個人の登録があり、無料配布している。

Q ボランティア袋の周知がなく存在が分かりにくい。

A (課長) 今後、ホームページなど修正していく。

Q 役場で登録、来庁せずとももっと気軽にボランティア袋を利用できないか。

A (課長) 現状では従来通りのシステムで運用していく。

観光インフラ整備について

Q 排尿問題や不法侵入の脅威から滝本地区に公衆トイレ設置を。

A (課長) 周辺環境への影響とコストなどを検討し検討していく。

Q トイレ設置にあたり利用できる東京都の補助事業があるか。

A (課長) 「森林資源を活用した魅力創出事業補助金」及び「東

京多摩・島しょ地域観光施設整備等補助金」が活用可能と考える。

Q 現地確認・現地調査をしているか。

A (課長) 被害状況は把握しており、改めて熟考しなければならない問題・課題と再認識した。

Q 山間部の携帯電話基地局設置要望を町からだせないのか。

A (課長) 不可能ではないが通信困難地域を解消する為、生活地域インフラが優先となる。

Q 町で鉄塔設立など工事を行う際の費用は。

A (課長) 以前の総務省資料では概ね3〜4千万円ほどとなっていたが、現在の物価高騰や設置場所を考慮すると更なる費用がかかると想定される。

